

2回目のニュージーランド紀行 <2011年地震&銃乱射事件>

初回:2011年12月 今回:2019年4月(8年後)



2019年7月26日 中島光明

- 面積: 約27万km² (日本の3/4)
- 人口: 495万人
(日本1億2644万人、3.9%)
- 人種: 欧州系74%、マオリ系15%

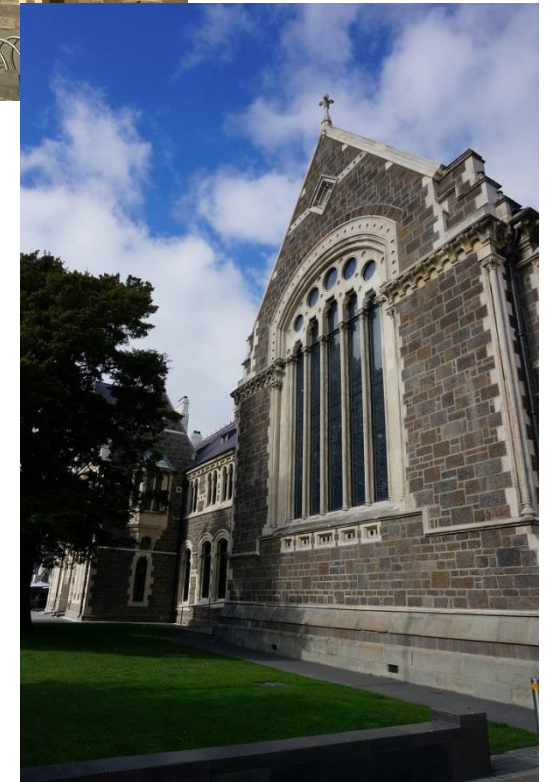
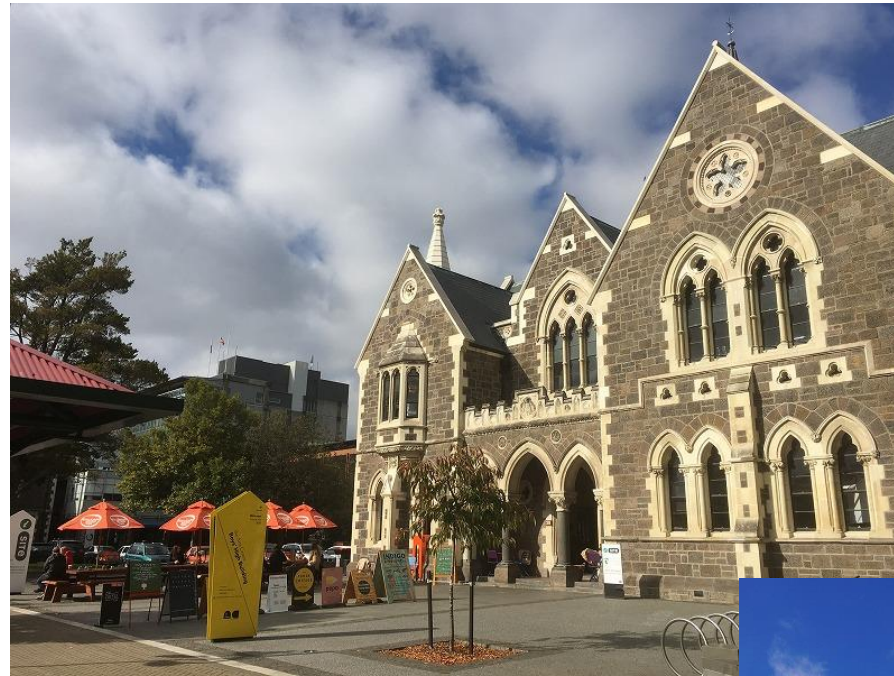
- 一人当GDP: 4.03NZ\$ = 322万円
(日本486万円の66%)
- 為替レート: ¥80円 / NZ\$
- 成田 - Auckland間: 10.5間
- 時差: +3時間

ニュージーランドの概要



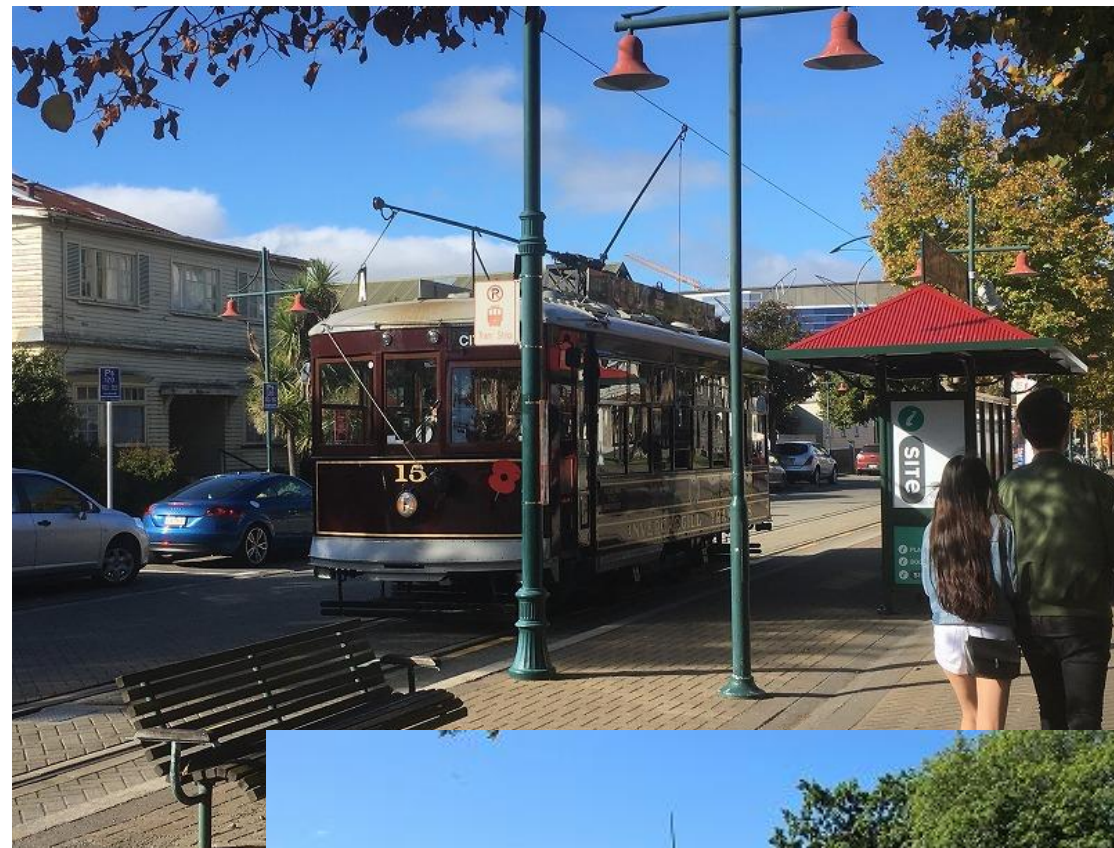
Christchurch

人口: 388,400人 (NZで2番目)



Cityセンター

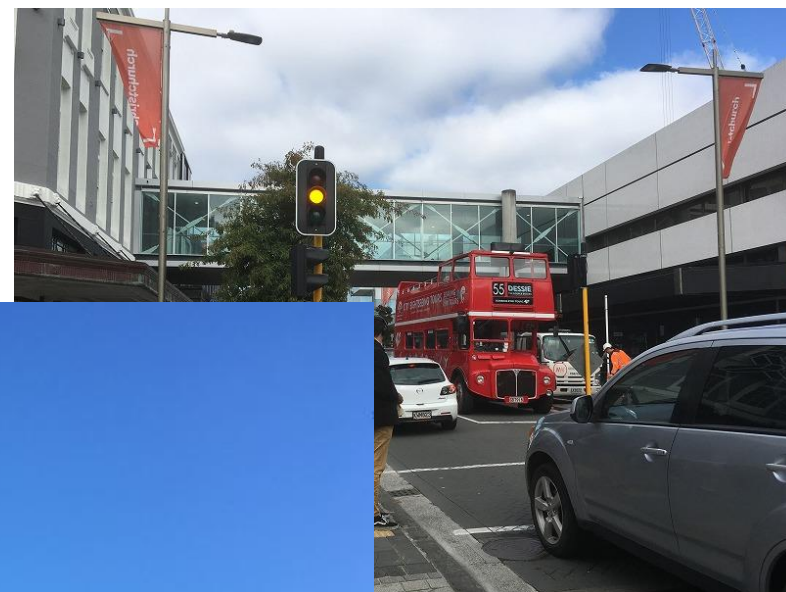
Christchurch ②



Cityセンター



Christchurch 市センターの 地震復興③



復興は60%



消防本部と裁判所

新築の市役所

Christchurch ④

空地やビル壁を活用したアート群



Christchurch 地震のその後 ⑤



崩壊のままの大聖堂
(Christchurchのシンボル)

改築中の建物群
空き地利用の駐車場

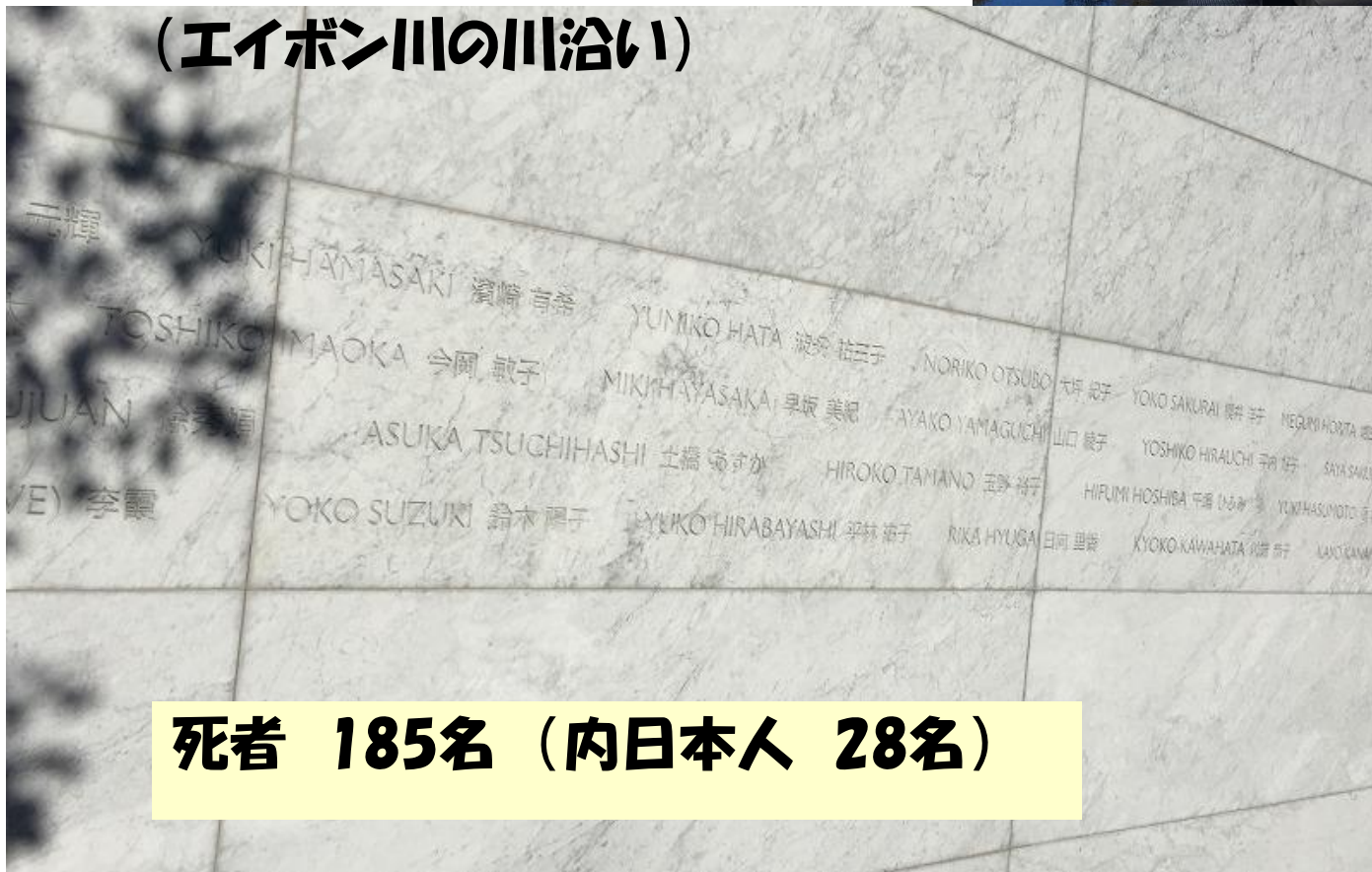


2011年2月から8年が経過



Christchurch ⑥

2011年2月地震の追憶の碑 (エイボン川の川沿い)



死者 185名 (内日本人 28名)



2011年2月地震による中心部の被害現場 (2011年12月撮影)



Christchurch ⑦

Christchurch ⑧



地震学者
ミシュコ先生に
インタビュー
(2012年1月)



だるまHP掲載＝会員レポートー平成23年度ー地震インタビュー

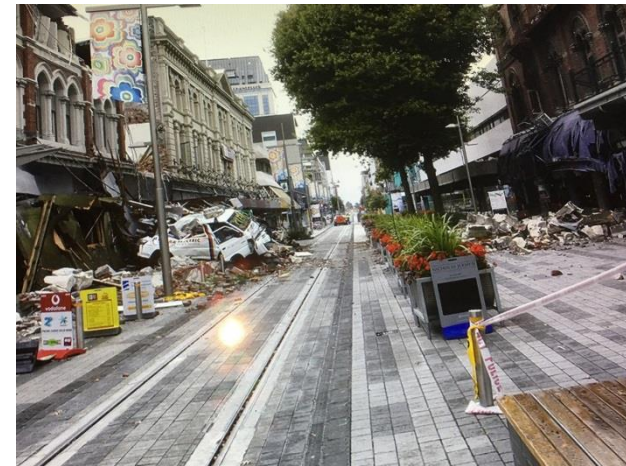


左:コンテナ
活用の仮店舗

右:大 학교舎の
被害と仮設教室



Christchurch 地震崩壊の映像 ⑨-B



Christchurch 地震センター ⑨-C



防犯カメラが捉えた
ビル崩壊の映像



Christchurch 液状化現象の模型 ⑨-D



- ・振動で軽量物は浮き上がる
- ・重量物は沈んでゆく

Christchurch

(ニュージーランド)

銃乱射事件





事件発生後の警護 (特殊部隊も出動)

事件後市内は外出禁止令
ロックダウン
(生徒たちは学校内で保護)



救急車の出動

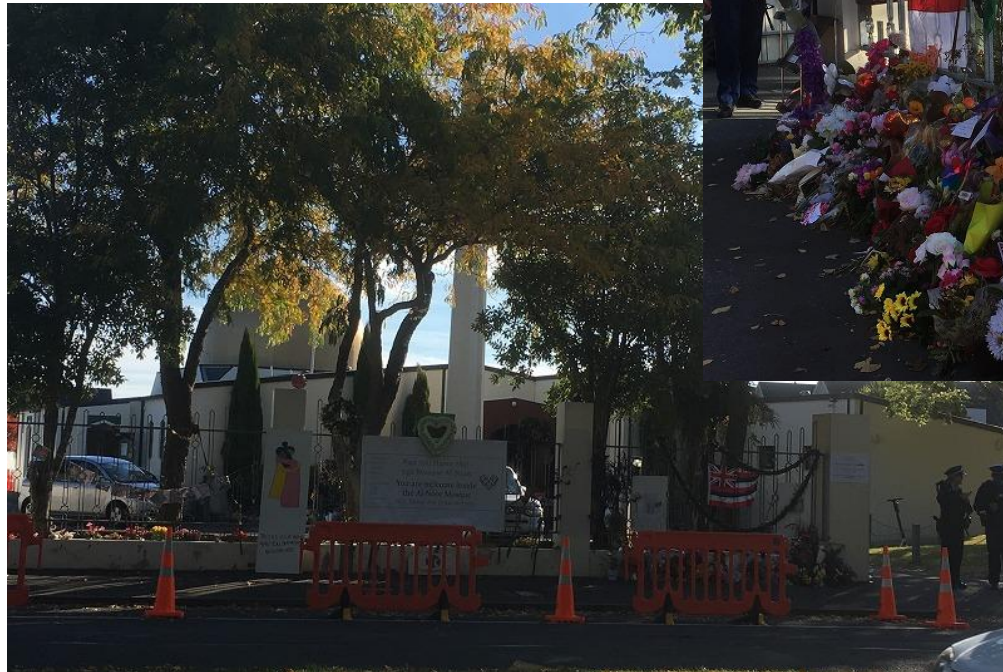


私見としての課題

1. 多文化・多様性社会で発生した銃乱射事件
2. 移民難民問題の影響(保護主義的な)
3. 銃規制についての対応
4. 格差の少ない社会での事件(最もリベラル社会で)
5. 反社会的な情報の拡散: Internetが無制御な空間
犯人が自ら撮影した事件の映像をYouTubeで配信



Christchurch 銃乱射事件



事件のあったモスクの1っか所
(死者50名)

・モスクを襲撃した銃乱射事件があったから、
2ヶ月が経過

・街は日常的な落ち着きを取り戻したものの、
イベントではヘリコプターによる空からの警戒

・モスク周辺では、武装警官が警備している
など、事件の爪痕は所々に残っています





アーダーン首相の議会演説

この事件へのニュージーランド国家と人々の対応は、心を熱くする感動的なものでした

- ・「銃撃犯はこのテロ行為を通じて、悪名を手に入れようとした。
だからこそ、私は銃撃犯の名前を今後一切口にしない。
犯人は名前を呼ばれるに値せず、無名のままで終わるべきです。」
- ・「皆さんは大勢の命を奪った犯人の名前ではなく、
命を失った大勢の人達の名前を今後も語り続けて下さい。」



- **この首相のスピーチは
メディアにも影響を及ぼし**
- **その後のニュースは「犯人に
焦点を当てた報道」よりも
「被害者に焦点を当てた
報道」中心となった**



我々は一つ

- 事件後各国のトップから哀悼の意が示された。
- アメリカ・トランプ大統領からもあり「何か力になれることがあれば協力するからと・・・」
- それに対しアーダーン首相は「移民に対し寛容な国であったアメリカは、どうなってしまったか。まず自国を見つめるべきではないかと。」とピシャリ!
- 5月中旬マクロン大統領主催の「SNS悪用防止対策の国際会議」がパリで開催され、主要国の政府・IT企業が参集したが、アメリカ政府からの参加は無かった。

終わり

